福祉職員さんの意識の変化、知識の深化が早期支援につながった

今回は、人もねこも一緒に支援プロジェクトの活動からマガジンを書きたいと思います。やっと、多頭飼育崩壊が起きてからではなく、起きる前に予防的に対応できるようになってきた気がする！なぜなら、、、という内容です。

多頭飼育崩壊の背景や支援について、福祉職の方向けにここ数年研修会の講師依頼をいただくことが増えてきました。京都市さんとは「高齢者とペット問題」というテーマで福祉職の方向けに参加無料の研修会を実施し、参加してくださった方には個別相談にも対応するという取り組みを始めて 2 年目になります。昨年は ZOOM でしたが、今年はコロナもあけたので、各区役所を会場に実施しました。

研修では、「多頭崩壊に陥りやすい方は、経済的に困窮している方、高齢や障害等で社会的に孤立しがちな方といった特徴があります。そういったリスクの高い方が猫の飼育をされていたら、不妊手術をしているか確認していただき、もし未だしていないようであれば、早めに相談してください」と伝えていました。多頭飼育が崩壊状態になる前に、数匹の段階で予防的な支援に入るには福祉職の方との連携体制の構築が不可欠だと思っていたからです。ただ、正直なところ、初めの数年はあまり効果を実感できる機会が少なく色々悩んでいました。しかし、昨年くらいから多頭飼育が崩壊する前に相談をいただけるケースが増えてきました。

NPO として福祉系の案件に係わるようになって 7 年。初めの頃は、あれこれ提案しても生活保護担当部署の偉い方に「多頭飼育崩壊なんて 100 ある問題のうちの 98 番目くらいなんですよ！」と一刀両断されて凹んだりしていましたが、だいぶ風向きが変わってきたなと感じます。そこで、今回のマガジンでは、2023 年度に人もねこも一緒に支援プロジェクト（NPO）で対応したケースを振り返りつつ、現場で感じた事を書き連ねてみようと思います。

ケース①　70 代男性 1 人暮らし猫 5 匹。

相談者：地域包括支援センター
相談内容：「高齢者の自宅で子猫が産まれたので、子猫を保護してもらえないか」
回答：子猫の保護よりも親猫たちの不妊手術を早急にしないとさらに増えちゃいますね！親猫に不妊手術を受けさせる了解をまず飼い主さんから取ってください。親猫を手術の為に動物病院へ送迎するついでに、子猫も連れて行って里親に出すためのメディカルチェック（ウイルス検査やワクチン）を実施できます。子猫 2 匹はまずは頑張って里親を探してみてください。」

結果：親猫 3 匹の不妊手術支援と子猫 2 匹の診察送迎を NPO で対応。子猫 2 匹は相談をくださった職員さんが里親を見つけてくださり無事譲渡されました！飼い主さんは手術を終えた 3 匹と引き続き暮らしています。
費用負担：送迎費と不妊手術費は NPO 負担、子猫の医療費は飼い主さん負担。
感想：猫活動していると友人知人には猫を渡しつくしているので、里親募集をする時は里親募集サイトなど SNS を利用するしかなく、時間がかかります。でも猫活動と全く関係ない人が友人知人へ里親募集情報を流すと案外早く里親補者が見つかる、というあるある。

ケース②　40 代と 80 代の父子家庭、猫 12 匹。（生活保護受給）

相談者：居宅介護支援事業所のケアマネさん
相談内容：「生活保護の父子家庭のお家で猫が増え、マンション管理会社から退去するように言われている。猫は窓から外中自由に暮らしている。どうしたらいいか。」
回答：退去させることは簡単ではないと思う。引取りはできないが、不妊手術支援であれば取り急ぎ可能なので、飼い主さんに不妊手術をする了解を取ってください。管理会社には状況が悪化していかないように対策を取るので住み続けさせてもらう方向で交渉してもらえないでしょうか。

結果：全頭の捕獲と不妊手術支援を実施。外中自由飼育なので、１回では全頭捕まりきらず、２日に分けて手術を実施しました。結果 12 匹の手術対応をし、うち３匹の子猫は NPO で引取り、里親さんへ譲渡。

費用負担：不妊手術費・送迎費・子猫医療費 NPO 負担。

感想：多頭崩壊のお家は臭いがひどいので、退去してもらいたいと思う管理会社や近隣住民の気持ちは痛いほど分かる。でも、多頭の猫と生活保護で引っ越せる物件なんてほぼ皆無なので、なんとか少しずつ改善していくのを見守ってほしい・・。

ケース③　70 代女性１人暮らし猫６匹犬１匹。（生活保護受給）

相談者：区役所職員さん

相談内容：高齢者の自宅室内で繁殖を繰り返し、猫が増えてしまっている。室内は猫の糞尿と物でゴミ屋敷になってしまっている。これまで行政が 11 匹引き取ったが、殺処分になってしまった子も一部いる。ハイシニアで飼い主さんが看取れると判断された３匹と、全く人馴れしておらず、捕獲できずに引取りを逃れた３匹の計６匹が室内に残っている状況。室内の環境改善もしたいが、猫がいるので掃除も入りにくい。

回答：飼い続ける支援の方向に入り変えるなら、未手術の子たちを捕獲をして動物病院に連れて行くついでに、手術済みの３匹も預かり、猫０匹の状態を最長１泊２日作ることができます。その間に大掃除支援に入ってもらうのはどうでしょう？

結果：つながる体制推進員さんが主導し、10 名ほどの関係者が一堂に集まる関係者会議をして、大掃除と猫の一斉手術を同時開催することに決定（一人の高齢者の為にこれだけの人数を集めるのは、調整に時間かかってケースの進みが遅くなるのでは？という懸念もありましたが、案外すぐに会議の招集があり、一気にすべての関係機関の調整がその１時間の会議でできたため、結果ケースの進みとしては早かった。つながる体制推進員さんの仕事っぷり素晴らしい。という感想でした）。福祉職員さんや行政の方による大掃除支援の日に合わせて、朝に猫を全頭捕獲し（ねこから目線。のスタッフに手伝ってもらいました）、スペイクリニックへ搬入対応をしました。これまで捕まえられなかった猫たちをどうやって１時間で室内捕獲するのか見たいと、３名ほど区役所の職員さんが見学に来られました。また後日、わんちゃんも未去勢だったことが分かり、手術支援を実施しました。

費用：捕獲送迎費とウイルス検査費用、犬の手術費は NPO 負担。猫３匹の手術費は happy Tabby clinic（八尾市）の個別支援プロジェクトで無料手術していただきました。

後日談：一旦とても綺麗になった室内だったが、飼い主さんだけでは維持が難しく日に日に汚部屋に戻って行く・・。犬を毎月８千円のトリミングに連れて行っていることを支援者が知り、その価格より安い価格でねこから目線。に毎月スタッフ２名体制で１時間大掃除に入ってもらおうと提案。できる範囲でワンちゃんのトリミングも対応してほしいと依頼され、継続関わりケースとなった。

感想：行政職員さんの把握力と提案力、継続的な関わりの姿勢が素晴らしかった。参考までに大掃除の費用は交通費込みで２人体制１時間 7,000 円、１人体制で 4,000 円。家中にこびりついた猫のうんちを剥がし、おしっこが染み込んだ床を磨き、水垢がついた水皿を洗う。仕事として依頼してもらえるのはとてもありがたいが、かなり過酷ではある。それに掃除後は一旦帰宅してシャワーを浴びて着替えないと次の現場に行けないので会社としては正直キツイ・・。

ケース④　70 代女性一人暮らし猫５匹。（生活保護受給）

相談者：地域包括支援センター

相談内容：行動意欲がなく、ほぼ寝たきり生活をしている高齢者の自宅で子猫が産まれていた。２階建ての２階部分は猫のトイレと化している。大掃除をしたが、猫を飼い続けるのは困難かもしれない。不妊手術は嫌そう。

回答：なぜ不妊手術が嫌なのかが気になる。可哀想だと言いつつも、実際はお金がかかるなら手術が嫌だという感じなら、費用は NPO で負担すると伝えたらコロっと OK してくれる人も多い。とりあえず一緒に家庭訪問して飼い主さんと話すことは可能です。

結果：ワーカーさんと一緒に家庭訪問。費用負担が無いと分かるとすんなり不妊手術も了承してくれました。それどころか、子猫も手放したい意志が確認できたので、母猫の避妊手術支援と、子猫３匹の引取りを NPO で対応しました。

費用：手術費、搬送費、子猫医療費ＮＰＯ負担、子猫は箕面市の保護猫カフェさんが協力くださり、保護譲渡対応していただいた。

感想：避妊手術くらいであれば、実費でも低価格な不妊手術専門病院さんなら 5,000 円程

度で実施してもらえる。１匹しかいないのであれば、それくらいの費用負担はしてほしいと思うが、5,000 円を本人さんに捻出してもらう為に何度も説得に通う手間や数ヶ月かけて費用をためていくことを考えると、『もう面倒くさいから NPO で負担しよう』としてしまう。でも 2023 年度の人もねこも一緒に支援プロジェクトへの寄付は今（３月）時点では 12,000 円ほどしかなく、同じ思考回路で対応してしまったケース①で使い果たしているので、結局自分のポケットマネーから捻出することになる。件数が増えてくるとかなり自分の生活に響く。活動資金集めもいいかげんなんとかせねば・・。

ケース⑤　40 代と小学生の母子家庭　猫６匹犬３匹。（生活保護受給）

相談者：人間の病院の相談員さん
相談内容：現在入院中の患者さんが自宅で猫と犬を沢山飼っており、心配で退院したいと言っている。経済的に厳しくフードの寄付をもらえるところがないかと相談された。子どももペットも手放す事にはとても拒否的な方。
回答：飼い続ける方向の支援は可能だが、他の福祉職の方がペットを手放させる説得をされると飼い主さんが混乱するので、他の支援さんともつながって方向性の確認をさせてほしい。また飼い主さんに不妊手術ができているのか、何匹いるのかも確認させてほしい。
結果：病院にて、主治医、相談員さん、支援センター担当者さん、訪問看護ステーション担当者さん、NPO から２名、飼い主さん、の７名で話し合い。飼い続ける方向で合意。猫は６匹いて、うち３匹がまだ未手術。犬は３匹おり、うち１匹が未手術でマーキングがひどいという事が分かった。退院の日に家庭訪問をして支援物資を届けつつ、室内の状況を把握。翌々週に猫３匹不妊手術支援と犬１匹の去勢手術支援を対応。
費用：猫の手術費、送迎費は NPO 負担、犬の去勢手術費は飼い主さん負担。継続サポート案件。
感想：飼い主さんが不妊手術の必要性をきちんと理解されていて、手術が必要な猫も３匹しかおらず、支援者の方々のサポート体制も良く、めちゃくちゃ対応が楽なケースでした。ありがたい。

ケース⑥　80 代女性一人暮らし　猫 6 匹
（生活費は年金 8 万円のみ、債務返済もあり）

相談者：動物病院の獣医さん
相談内容：非常に状態の悪い飼い猫ばかりを診察に連れてくる高齢の飼い主さんがいる。自身でも掃除ができなくて家がひどい状態になってしまっていると言っている。NPO から連絡してもらう OK はもらったので、相談に乗ってあげてほしい。
対応：連絡をすると、「元々保護猫活動をしており、飼っている 6 匹は全頭不妊手術が済んでいる。近所の公園などを回って、ノラ猫さんへの餌やりは今も毎日行っている。体の自由が利かなくなり、掃除ができなくなってきた。室内は糞尿と物の山。ヘルパーさんに入ってもらう為、NPO のケアマネスタッフから、担当地域の地域包括支援センターに連絡を取り、飼い主さん宅を一緒に訪問するが、まさかの地域包括支援センターの方が「ペット不可の住宅で猫を飼って汚部屋になっているのは完全に自己責任。支援対象ではない。」と本人に言い放ってしまう。NPO のケアマネスタッフが地域包括支援センターへ何度も話し合いを試みるが、電話を取り次いでもらえず、折り返しも無く、話し合いが難航。自己責任だから支援しない、というのはおかしいのではないかという旨の手紙を送って話し合いの場をやっと後日持てることに。NPO のみで大掃除支援と困りごとの聞き取りを実施中だが、飼い主さんの気持ちもコロコロ変わり、かなり難航中。
感想：今年はかなり、多頭崩壊に至ってしまう飼い主さんに対しても寄り添った対応をしてくださる福祉職の方にあたる事が多く、忘れかけていたが、「なんで猫の問題を福祉職がやらないといけないんですか。」という主張は根深くある、というのを思い出させてくれるケースでした。結局は担当になる人次第なところが多い現実。「自己責任って言いだしたら、足腰が悪くなっていくことだって本人の運動不足だと言えるし、高齢者が要支援になる理由なんて全部自己責任なんですよ。でもね、理由がなんであれ、今すぐ支援が必要な状況で、本人が助けてほしいと言っているのに何もしないとは職務放棄ですよ！」と NPO に新しく加わってくれたケアマネスタッフが怒りまくっていて頼もしかった。笑

ケース⑦　50 代カップル　猫 1 匹（生活保護受給）

相談者：本人から直接。他の多頭飼育支援中ケースの飼い主さんからの紹介らしい。
相談内容：１匹だけメス猫を飼っている。発情期がひどく手術したい。手術費は安ければ出せるが病院送迎ができない。
対応：不妊手術専門病院の予約と送迎を対応。
費用：送迎費は NPO 負担、不妊手術費 5,000 円は飼い主さんが負担。

感想： 1匹だけの飼育で、飼い主さん本人からのSOSは一番スピード解決できて楽である。そして最も予防的な支援だと言える。

ケース⑧　40代夫婦　猫1匹（生活保護受給）

相談者：本人。知り合いから聞いたらしい。
相談内容： 1匹だけメス猫を飼っている。発情期がひどく手術したい。手術費は安ければ出せる。病院の送り迎えもできる。
対応：低価格の不妊手術専門病院の予約代行のみ。
費用：交通費、避妊手術費、飼い主さん負担。
感想：病院の紹介と予約代行だけで済んだ最も楽だったケース。予防的に支援ができて非常に嬉しい。こちらも知り合いからの紹介らしい。生活保護世帯界隈で私の個人ケータイ番号が出回っているのだけ若干気になる。

ケース⑩　80代女性　猫24匹

相談者：区役所職員
相談内容：近所でノラ猫に餌をあげ、連れて帰ってきている室内には物が山積しており、何匹いるか不明。離れて暮らす息子さんと連絡が取れたが猫をどうしたらいいか。息子さん含めて関係者会議をするので、一緒に来てほしい。
回答：会議参加ＯＫ。とりあえず室内見たいです。
対応：物が多すぎて頭数不明、特殊清掃とリフォームを入れるため、室内捕獲と1ヵ月間の猫の預かり対応をすることに。はじめは6～10匹くらいかなという予想でしたが、片っ端から捕獲をしたところ、24匹居ました・・。飼い主の息子さんと相談しながら対応中。現在進行形。子猫5匹は箕面市の保護猫カフェさんが保護してくださった。
費用：捕獲病院送迎実働はNPOが対応。医療費、交通費、一時預かり費は飼い主さんの息子さんが負担。今回もhappy Tabby clinic（八尾市）の個別支援プロジェクトを飼い主さんの息子さんから申請してもらい、成猫18匹は無料で不妊手術してもえた。4匹が約5匹ずつ妊娠しており、残念だが合計20匹の堕胎手術になった。
感想：黒猫湧出でる泉が室内のどこかにあるんじゃないかと思うくらい、保護しても保護しても次から次へと黒猫が出てきて恐怖でした。結局24匹中22匹黒猫でした。これからどうしよう・・・。

一気に、この１年間を振り返ってみました。そこで気が付いたことですが、昨年までの対応ケースだと猫さんの飼育頭数が 10 匹以下という事はほぼありませんでした。つまり、深刻化してからの相談がほとんどだったと言えます。それに比べて今年の相談は、猫の頭数が 10 匹以下のケースが６件もあました。その要因として考えられることは２つあり、１つは深刻化する前に「このまま放っておくともっと深刻になる」と福祉関係者の方が先を見越して動いてくださるようになったという意識の変化または知識の広がりがまず挙げられます。研修会などの成果だと嬉しいです。２つ目は、対応したいんだけれど、自力では難しい当事者に直接 NPO の情報が届いたことが挙げられます。これは狙ったことではありませんが、支援した生活困窮世帯が増えたことで、利用者からの口コミで広がっていったと考えられます。

福祉と猫の勉強会・交流会

社会の関心が変わってきたなと感じた事といえば、2023 年７月に人もねこも一緒に支援プロジェクトとして初めて主催したイベント「猫と福祉の勉強会＆交流会」もあげられます。きっかけは大阪府内でケアマネとしてバリバリ働いている２人から、「自分の専門を生かして猫問題の役に立てないだろうか」という話をいただいたことです。色々話をする中で、福祉職の方は、何かしらの理由で猫ボランティアさんに怒られた経験がある人が少なくなく、“猫ボラさん＝怖い”という印象を持ってしまっている方が少なからずいることを教えてもらいました。確かに私も「高齢者の家に猫が２匹取り残されてるんで今すぐ引取りにきてくれませんか？え？お金かかるんですか？ボランティア団体ですよね？」という電話がかかってくると、『そんな簡単に引き取れないし、ボランティアって大半は自分で生活費と活動費を仕事で稼ぎながら隙間時間に頑張って動いている生き物なんですよ・・』と心の声が嫌味っぽく出そうになってしまう事があります。猫ボラからしたら、仕事ではないこちらの事情も分かってほしい！とつい感情的になりがちですが、福祉職の方からしたら、「そんな事情しらなかったし、行政から助成金が潤沢に出てるものだと思っていた。」と思うのも当然です。本当にお互い住む世界が違って接点が無かっただけです。

2021 年「多頭飼育崩壊は社会福祉と動物愛護の多機関連携が必要です。」と環境省がガイドラインを発表しました。これも意識改革の一助になったと思いますが、実際に問題に直面してから、連携を取ろうと思っても人間福祉と動物愛護では上述の通り相互理解が無さ過ぎて、いざ同じテーブルについて話し合おうとしても苦戦してしまう事が多くあります。だからこそ、問題が起きる前に練習試合できる場を作ろう！ということで、福祉系の

お仕事をしていらっしゃる方と動物愛護活動をしている方とのゆるい交流の場を試験的に作ってみることにしました。だいぶマニアックな会なので、10 人くらい参加してくれたらいいなぁと思っていましたが、蓋を開けてみたら東は東京から、岐阜、静岡、西は鳥取まで全国各地から関心の高い方が集まり 61 名の盛況なイベントになりました。

正直に白状すれば、猫ボランティアさんと福祉の方を同じテーブルに着かせて喋らせたら、ボランティアさんが一方的に福祉の方を糾弾してドン引きさせてしまうのではないか、福祉の方が一刀両断してボランティアさんが傷ついてしまうのではないか、溝を深める展開になったらどうしよう・・。と心配で、交流会のフリートークの時間を 30 分と短めに設定しました。その結果、短すぎるというクレームをいただきました。もう猫と福祉はマニアックな分野ではないのかもしれない（おそらくまだマニアック）。分かりあえないことは決して無く、お互いに相手のことを知りたい、知ってほしい、繋がりたい、と考えている方は沢山いるようです。素敵すぎる・・。というわけで、今回、猫と福祉の勉強会＆交流会 2 を企画しています。2024 年 3 月 17 日ですので、発行されてすぐこのマガジンを読んでくださっているのであれば、まだ間に合います（笑）。今回は、第 1 部は事例 10 本ノック！猫と福祉が絡む問題にぶち当たった経験のある、行政職員さん、NPO 職員さん、ケアマネさん、などなど、様々な立場の方からリアルな事例を 1 人持ち時間 10 分という驚異の短さで発表していただきます。上手くいったケース、悔いが残ったケース、色々な事例を共有することは、成功した 1 ケースをじっくり解説するセミナーとはまた違う学びと面白さがあるはずです。事例発表は、市役所職員さん、NPO 職員さん、地域包括支援センターさん、動物病院さんなど総勢 10 名。全員前線で活動する現場からのレポートです。トリには「内側から見る多頭崩壊」というテーマで 7～8 年前に 78 匹多頭崩壊のケースの子どもポジションだった K さんと猫の支援者として関わってきた私の対談です。7 年かけて家族と猫の生活の立て直しを頑張り、今は家族から独立して一人暮らしをしている K さんが生の声を聞かせてくれます。そして、後半は前回時間が短いと苦情をいただいた、座談会を３０分ではなく 1 時間に拡大しました！

高齢者とペットの問題も、多頭飼育と貧困の問題もまだこれといった解決策があるわけではありません。全国各地で試行錯誤の挑戦を繰り返している人たちがつながって、励まし合いながら走り続けて、いつか突破口が見つかりますように！

おわり

小池英梨子
ねこから目線。～保護猫とノラ猫専門のお手伝い屋さん～　代表
NPO 法人 FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク
「人もねこも一緒に支援プロジェクト」　プロジェクト代表
ご意見・感想・お問い合わせ：e.kosame12@gmail.com